

2018年度公認野球規則改正のポイント

平成30年4月23日
香川県軟式野球連盟学童部

1. 故意四球（敬遠）について

（公認野球規則：185頁参照）

守備側チームの監督が審判員に故意四球の意思を伝えた場合（この場合はボールデッドである）、打者には、ボール4個を得たときと同じように、一塁が与えられる。

《解説》

故意四球を行う場合、守備側チーム監督は、タイムを取り、球審に「故意四球」の意思を伝える。このタイムは、監督タイムに数えない。球審は、故意四球を周囲に示し、打者を一塁へ進ませ、プレーを再開する。

- ・ 打者二人を連続して故意四球にする場合は、一人ずつ行う。但し、投手の投球数はゼロである。また、打者一人に投球した事になる。
- ・ 投球の途中からでも故意四球は出来る。 例：カウント2ボールからでも可

2. 投手の二段モーションとは

（公認野球規則：44頁参照）

投手が投球動作中に、故意に途中で止めたり、変更したり、投球動作をスムーズに行なわず、段階をつけるモーションや、手足をぶらぶらさせて投球することを二段モーションと言う。

二段モーションをした場合

①走者なし

投手に対して、その都度「注意」をする。但し、罰則はない。

②走者あり

ボークとする。

以上